

- 貨物専用線線状跡地の提案 -

背景

3700万人の後育地人口を持つ東京を支える鉄道。



2種の積載は大きく異なる。

旅客 / 貨物
ヒト /モノ

物資を運ぶ鉄道貨物は都市のニーズに合わせて変化してきた。
東京の成長を明確に表しているのが鉄道貨物である。



調査編

1章：東京圏の貨物鉄道の発達と種類

2章：専用線における線形跡地の開発

3章：貨物利用用途における跡地周辺の分析

設計編

4章：ケーススタディ

調査

01 東京圏の鉄道貨物の歴史と跡地

特系列で東京圏を見ると、鉄道貨物が残っている様子がわかる。



02 開発用途

大きく分けて4種類の用途に別れる。

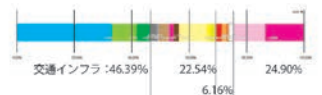


03 残留面積

敷地が線路の形状をどのくらい残しているかに着目する。

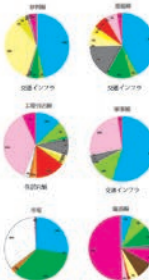
	面積	面積	割合
線路内	69238.6 m ²	47962.6 m ²	69%
線路外	15282.4 m ²	12611.5 m ²	82%

04 残留面積合計と用途の合計から出した用途平均
が敷地が交通用途に開発されている。



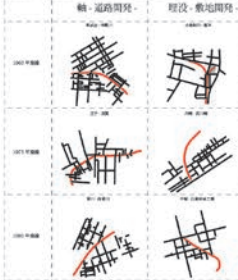
05 6種類の貨物開発用途

貨物内容によって開発の傾向が見える。



06 開発用途別の跡地と周辺街区

異なる周辺街区のグリッドの敷



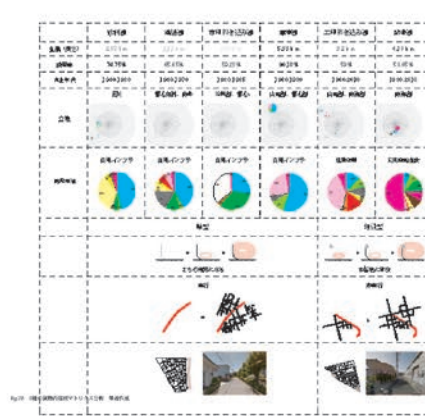
07 開発用途別の跡地と周辺の建物配置

周辺の建物配置にも差が生じる。

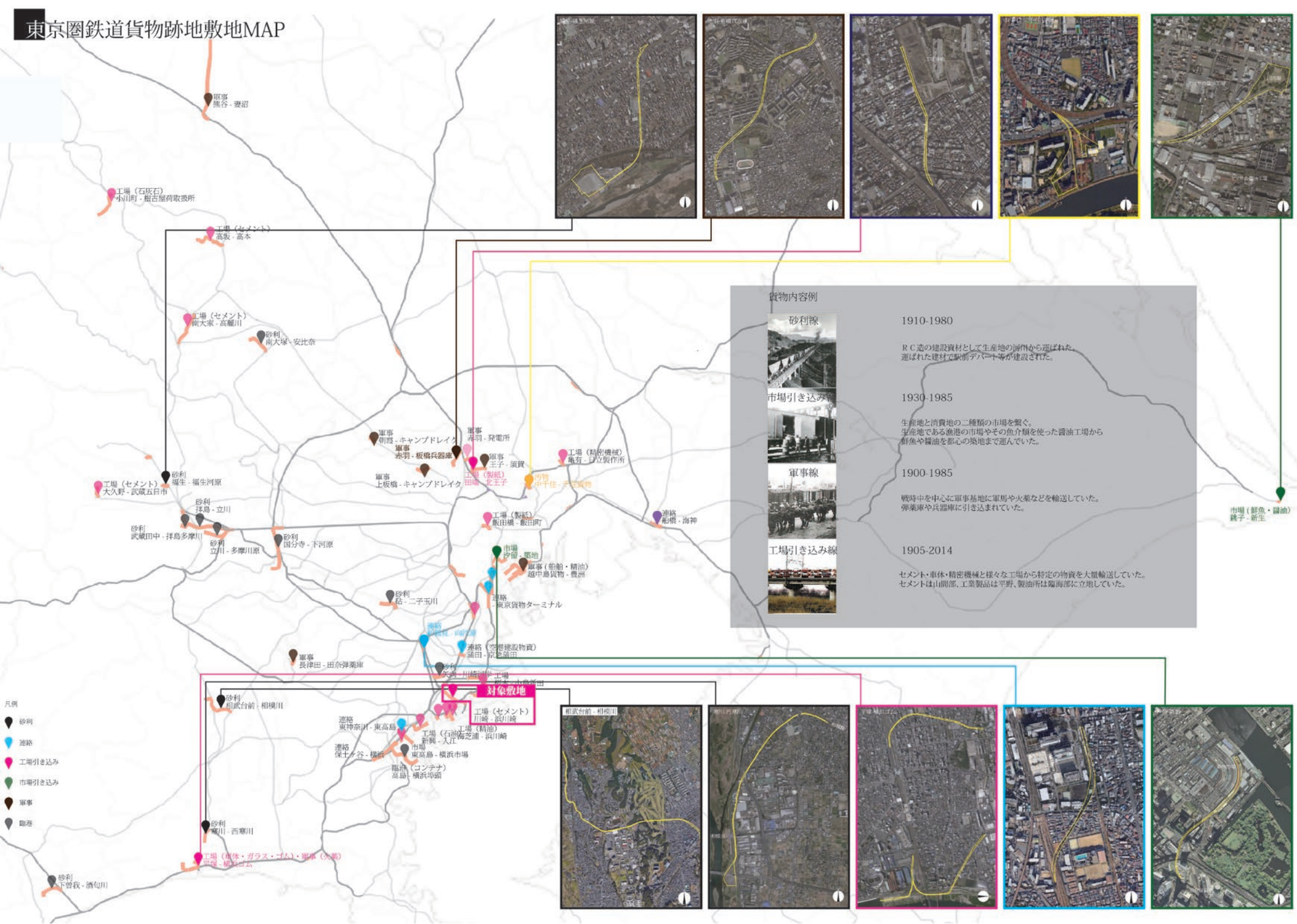


08 6種類の貨物内容によるマトリクス分析

6種の貨物内容がまちへの影響にも差をうむ。



東京圏鉄道貨物跡地敷地MAP



DIAGRAM



PROGRAM

PROGRAM

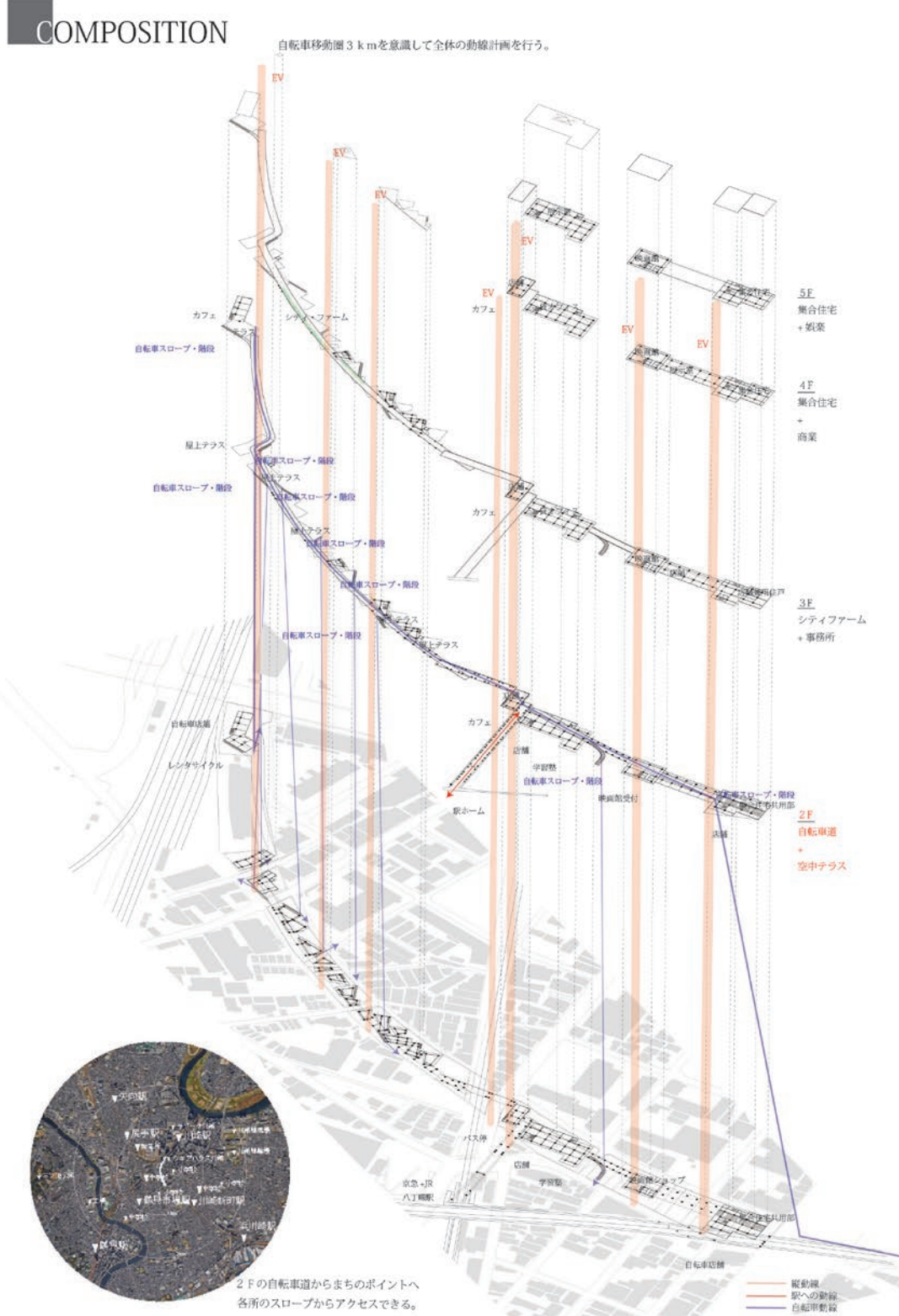
延床面積	エリア	敷地面積	建築面積	容積
	1	3189.506178	1913.704	6379.012
	2	533.7983816	320.279	1067.597
	3	2421.926533	1453.156	4843.853
	4	3188.628046	1913.177	6377.256
	5	2366.023558	1892.819	9464.094
	6	4875.887304	3900.71	19503.55
		16575.77		47635.36

延床面積	エリア	敷地面積	建築面積	容積	現況用途	面積合計
	1	3189.506178	1913.704	6379.012	住居	2986
	2	533.7983816	320.279	1067.597	福祉施設	2729.7
	3	2421.926533	1453.156	4843.853	店舗	293.2
	4	3188.628046	1913.177	6377.256	事務所	707.9
	5	2366.023558	1892.819	9464.094	倉庫	82.3
	6	4875.887304	3900.71	19503.55	駐輪場	4561.1
					駐車場	1379.4
		16575.77		47635.36	計	12739.6

延床面積				現況用途		新規用途	
エリア	敷地面積	建築面積	容積	用途	面積合計	用途	面積合計
1	3189.506178	1913.704	6379.012	住居	2986	自転車道	4506.733346
2	533.7983816	320.279	1067.597	福祉施設	2729.7	店舗	2000
3	2421.926533	1453.156	4843.853	店舗	293.2	レンタサイクルセンター	1000
4	3188.628046	1913.177	6377.256	事務所	707.9	子供図書館	1000
5	2366.023558	1892.819	9464.094	倉庫	82.3	集合住宅	1000
6	4875.887304	3900.71	19503.55	駐輪場	4561.1	市民集会所	500
	16575.77		47635.36	駐車場	1379.4	市民ホール	3000
				計	12739.6	シティファーム	4506.733346
						計	17513.46669



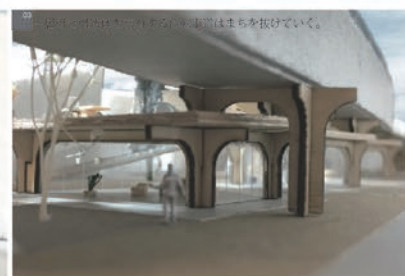
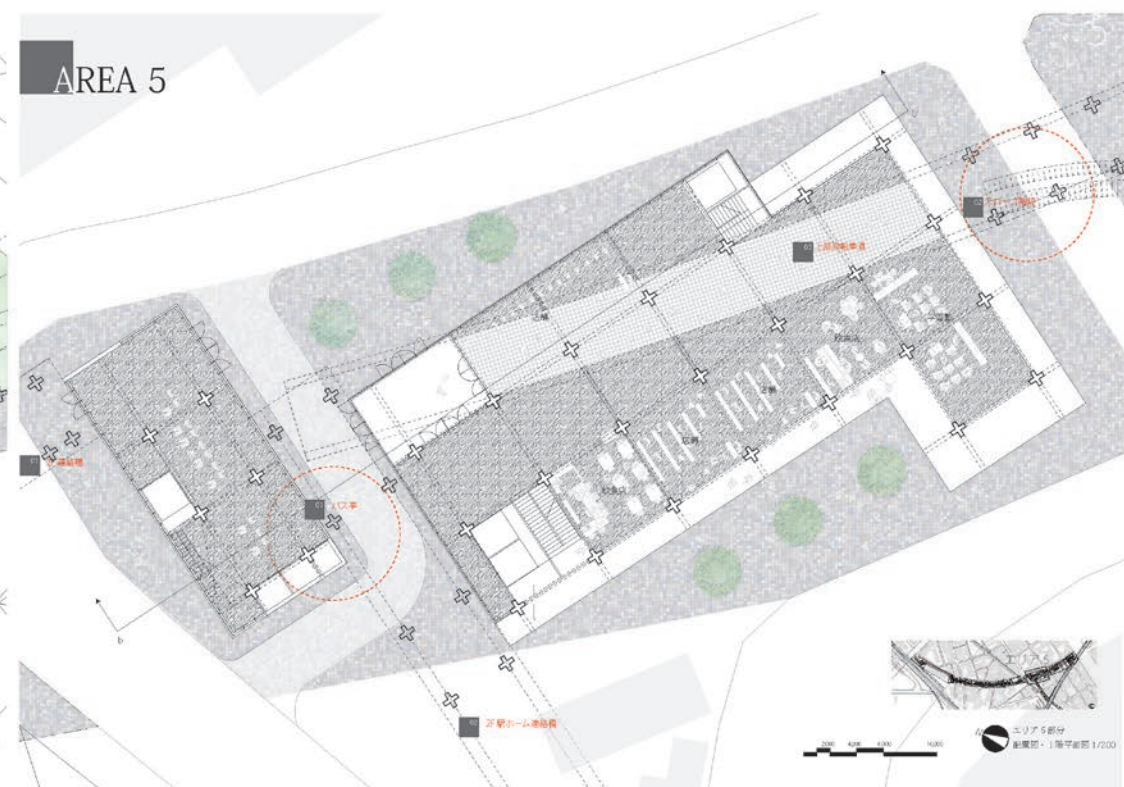
COMPOSITION



AREA 4



AREA 5



様々な機能を持つまちのポケットが連続する。

